

地域の食×物流

鮮度を守り、地域のおいしさを全国へ 食の選択肢を支える物流の力



「食べてみたい」をかなえる、その舞台裏

旅先で出会ったヨーグルトを、自宅でも味わいたい。遠く離れた土地の名産品を、大切な人に贈りたい。EC やふるさと納税を通じて、地域のおいしさを取り寄せる機会は身近になりました。

けれど、注文できることとおいしさを維持した状態で届くことの間には、越えなければならない壁があります。冷蔵食品や賞味期限の短い商品では、**輸送時間や温度管理によって、届けられる地域や販売の機会を左右する**からです。

作り手が大切に作るおいしさを、遠くの食卓までどう届けるか。岩手県の乳製品メーカー・YUDA ミルクさまの取り組みから、地域の「届けたい」と消費者の「食べたい」をつなぐ物流の役割を紹介します。



YUDA ミルクさまの“美味しさへのこだわり”を支える物流改革

岩手県で牛乳やヨーグルトなどの乳製品を製造・販売する YUDA ミルク株式会社さまが大切にしているのは、**素材や製法にこだわった商品をお客様にお届けしたい**という想いです。



YUDA ミルクさまの工場は岩手県にありますが、出荷先は東北をはじめ全国各地へ商品をお届けしています。ヨーグルトなどの冷蔵食品は賞味期限が限られるため、遠方へ届ける際には、輸送中の温度管理に加え、納品までにかかる時間への配慮も欠かせません。販路をさらに広げるうえで、鮮度や品質を守りながら安定して届けられる物流体制の強化が課題となっていました。

“おいしさ”を守る物流設計

こうした課題に対し、佐川急便は「**どうすればおいしさを維持したまま全国へ届けられるか**」という視点で物流体制を見直しました。

その中心となったのが、物流課題の解決を支援する先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「**GOAL®**」です。輸送品質やリードタイム、運用面を含めた最適な物流体制を検討しました。

提案の中で鍵となったのが、2024 年にグループ入りした C&F ロジホールディングス（現・名糖運輸）との連携です。同社の全国規模のチルド物流網や共同配送ネットワークを活用し、冷蔵食品の鮮度や品質を守りながら、遠方の出荷先にも安定して届けられる物流体制を整えました。

こうした体制の強化が、YUDA ミルクさまの販路拡大を物流面から支えています。



地域の「届けたい」と消費者の「食べたい」をつなぐ

YUDA ミルクさまのように、地域で育まれた商品の販路を広げるには、その品質を守って届ける体制が欠かせません。物流のネットワークを活用することは、地域のメーカーさまが商品開発や製造に力を注ぎながら、遠方の市場へ挑戦するための支えになります。それは、消費者にとっても、これまで身近な店では手に入らなかった地域の食品と出会う機会につながります。

生産者の「おいしい状態で届けたい」という想いと、消費者の「食べてみたい」という期待をつなぐ。それは単なる配送ではなく、地域の産業や食文化の可能性を広げる取り組みです。

佐川急便はこれからも物流の力を通じて、地域企業の挑戦を支えていきます。

※GOAL® (GO Advanced Logistics) は、SG ホールディングスグループの機能を結集し、お客さまと共に物流課題の解決を目指す先進的ロジスティクスプロジェクトチームです。